



▲天野尚さん（左）と観光協会飯橋会長。

## 手拭いの売上金を寄付

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける市内の観光業を盛り上げようと染物店「天野紺屋」が8月5日、創業150年を記念して製作した手拭いの売上金を市観光協会に寄付しました。手拭いは安来の特産品であるイチゴをイメージした柄のもの。1枚500円の特別価格で150枚を用意し、店頭とインターネットで販売したところ即日完売しました。

天野紺屋5代目の天野尚さんは「これからの安来のために役立ててほしいです」と話していました。

寄付金は、市内の伝統工芸や観光のPRに活用されます。



## 議場で中学校生徒会サミット

市内中学校の生徒会役員が集まり、8月18日に市役所議場で「中学校生徒会サミット」を行いました。同サミットは、各校との交流、生徒会活動の活性化を図るとともに、学校生活の諸課題を解決することを目的に平成27年度から各校が持ち回りで開催しています。今年度は5校が一巡する最終年度の節目となることから、市民と市議会議員が意見交換をする「やすぎ未来トーク」を兼ねて市役所議場を会場に開催しました。



まちの話題や出来事をご紹介します



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック (FB)」で公開しています。



夏休みの寺子屋で作った積み木タワー。自分の身長くらいの高さの大作になりました。子どもたちは、倒さないように慎重に手を動かしていました。

今月の一枚



◀生徒たちは、緊張しながらも堂々といじめ問題への取り組みを発表しました。

生徒会役員15人は、いじめ問題の解決のためにこれまで各校で取り組んだことを学校ごとに議員の前で発表。いじめ問題への対策として、生徒同士で良いところや感謝の気持ちを書いたカードを模造紙に張り、体育祭の時に張り出す計画やいじめ撲滅の旗を持ってあいさつ運動をするなどの取り組みを報告しました。

伯太中学校生徒会長の岩田<sup>どうま</sup>真真さん(3年生)は「他校の取り組みはとても参考になりました。今後も市内5校で力を合わせていけば、より良い学校になるのではないかと思います」と話していました。



▶スマートフォンを見ながら  
の目的地を確認する参加者。



## 安来の名所を探検

市内の観光スポットや名所について学んでもらい、魅力を再発見してもらおうと8月2・10・23日に「Yasugi Quest」を開催しました。

決められた観光地などを巡り、スマートフォンのアプリケーション上でスタンプを集めるこの企画。指定された地点にはクイズや指令があり、それをクリアしながらスタンプの獲得を目指していきます。

参加した32組の家族は、地図を頼りに自家用車で目的地へ移動。難解なクイズなどに苦戦しつつも、楽しみながら市内の名所について学んでいました。

## 名産の二十世紀梨を出荷

安来の名産品の一つである二十世紀梨の出荷が8月26日から始まりました。暖冬の影響や梅雨が長かったことなどから今年の梨は小玉傾向。それでも糖度は例年になく高い仕上がりとなりました。

機械と手作業により大きさや形などを選別・箱詰めされた梨は県内をはじめ、広島県、山口県に出荷されました。

やすぎ梨生産部会の岩田繁樹会長は「今年は特に甘くなっています。多くの人においしい安来の梨を味わってほしいです」と話していました。



▲良いものから秀・優・良の3つに選別されます。

## 寺子屋で木の魅力を体験

夏休みの小学生が楽しく遊べる場を提供しようと8月5日、安来中央交流センターで「夏休みの寺子屋」が行われました。

参加した児童は午前中に木材を使ってロボットを製作。午後からは木製のおもちゃや積み木などで遊べる「木育ひろば」を楽しみました。

参加者からは、「いろいろな木のおもちゃで遊んで楽しい1日になりました」や「あまり触れることの少ない木の魅力を感じることができました」などの感想が寄せられていました。



◀積み木で遊ぶ児童。誰が一番高く積めるか競っていました。



◀年間に一般家庭の約400世帯分に相当する電力を発電します。

## 山佐発電所を地元住民が見学

山佐ダムに隣接する山佐発電所（水力発電所）の見学会が8月7日に行われ、地元住民27人が参加しました。

同発電所は、県企業局が平成30年9月から建設をスタート。今年の9月2日から運転を開始しました。発電の仕組みは、山佐ダムから同発電所までの落差約32mを利用して、水力により発電のための機械を動かすというものです。

参加した加藤英俊さんは「自然エネルギーを利用したこの施設が有効に活用されることを期待しています」と話していました。